

津市立ハツ山小学校だより

# この学校にわたしたち

2023. 8. 19

N026

## 新しい土を加えながら伝統を守る…

現在、連日の猛暑の中、高校野球が甲子園球場を舞台に熱戦を繰り広げています。試合終了後、負けたチームがベンチ前の土を両手でかき集め、シューズ袋などに入れているシーンをよく見かけます。この球場を陰で支えている集団の一つに阪神園芸があります。阪神甲子園球場では雨が上がる



(写真は NUMBER WEBより)

とグラウンドを覆っていたシートをはがし、ものの数十分で砂を入れ、試合ができるように整えていきます。まさに職人の技です。甲子園球場の土は、雨などで流れた分を補うなど日々の細やかな整備とともに年1回深く掘り起こす天地返しを行いながら99年前の開場当時の野球場にふさわしい土を守っていると言われています。どこの球場にも球場を守るためのグラウンドキーパーがいて、プロとしての誇りをもって仕事をしているでしょう。しかし、阪神園芸のように、新しいものを加えながらも先輩たちが試行錯誤しながら作り上げてきた伝統をしっかりと継承しているところは少ないのではないのでしょうか。職人さんたちのプロ意識に深く感動しました。

明治5年に学制が公布され近代教育制度がスタートしました。それぞれ、学校創立の時期は少しずつ異なりますが、津市内の学校におきましても創立150周年を迎えているところが続いています。白山町内におきましても令和4年に川口小学校、令和5年に倭小学校が150周年を迎え、ハツ山小学校も間近に迫ってきています。

教育に関して、昨今、学習指導要領の内容改訂やICTの急速な進化に伴い、授業や家庭学習も大きく変化しています。また、全国的にも不登校・いじめ・不審者侵入、新型コロナウイルス感染症・熱中症や水難事故・登下校時の交通事故や落雷・ゲリラ豪雨など児童や教育に関わる環境がここ5年程の間に急激に変化しています。「前は~こうだった」では通用しない時代に入ってきております。

2学期を目前に控える今、ハツ山小学校の先輩の校長先生が大切にしながら引き継いできた伝統を大切にしながら、今の時代に合わせ、また、将来の子どもたちやハツ山地区のことを見据え、新しい土を加えながら学校としての“天地返し”を行っていかねばならないと強く感じる今日この頃です。保護者や地域の皆様、2学期も宜しく願います。

※余談ですが…10月からスタートする【下刻上球児】は白山高校野球部を舞台にしたドラマだそうです。